

## (9) スモモ

## 〔果樹類&gt;落葉果樹&gt;核果類&gt;小粒核果類&gt;すもも〕

## ① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害全般】	[耕種的防除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するために、袋かけ栽培が望ましい。
灰星病	開花期 および 果実肥大終期	・花では花弁やガクが腐敗して褐変する。成熟期の果実で発病すると褐色に軟腐し、果実全体が灰色の胞子で覆われる。 ・雨が多いと発生が増加する。 ・花腐れを防ぐには、開花直前と満開直後に薬剤を散布する。 ・果実に少しでも発生すると、急激に二次感染が進むので、収穫の1か月前～収穫直前に薬剤を散布する。
ふくろみ病	休眠期～ 開花直前	・開花終了後まもなく果実が異常生育し、豆さや状に肥大する。 ・「ソルダム」系品種は発病しやすいので、対策が必須である。 ・発生に気付いた時点で手遅れなので、必ず休眠期や発芽前に薬剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u> 。
環紋葉枯病	生育期	・収穫期～梅雨明けの期間が低温多雨で推移すると、谷合などで発生しやすい。 ・発生初期に防除する。
黒斑病 かきよう病	・スモモに発生する細菌病として、黒斑病(モモのせん孔細菌病と同一の細菌)やかきよう病がある。 [耕種的防除]	・枝や果実表面のキズを防ぐため、防風垣や防風ネットを設置する。
	休眠期	・ボルドー剤を用いる。
	生育期	・袋かけが終了するまでの防除には、毎回、生物殺菌剤を混用し、感染予防に努める。ただし、抗生物質薬剤は生物殺菌剤の生菌を死滅させるため、生物殺菌剤と抗生物質薬剤は混用しない。 ・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
アブラムシ類	展葉期～ 新梢伸長期	・モモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ等が加害する。 ・常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 ・スモモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にスモモ樹に帰ってきて産卵し越冬する。
コスカシバ	休眠期 (開花期まで)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に薬剤を散布する。 ・新芽の薬害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼虫発生期	・主幹や主枝、特に虫糞が見られるところを中心に薬剤を散布する。 生物農薬は、効果を高めるために晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成虫発生初期 (5月上～中旬)	・この時期は成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。 ・効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて防風垣や防風ネットを設置する。 ・効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。
カメムシ類	果実肥大期	・これらの害虫は発生が見られたら、すみやかに薬剤を散布する。
ケムシ類 (イラガ)	生育期	
ハマキムシ類	生育期	

病害虫名	防除時期	摘 要
シンクイムシ類	果実肥大期 ～成熟期	・果実への食入が始まる前に薬剤を散布する。
カイガラムシ類	( 共 通 )	・スモモを吸汁加害するカイガラムシ類として、ウメシロカイガラムシやナシマルカイガラムシがある。
カイガラムシ類 幼 虫	休 眠 期	・ <a href="#">休眠期防除参照</a>
	生 育 期	・カイガラを形成すると薬剤の効果が著しく低下するので、幼虫のふ化を確認して、ふ化最盛期に薬剤を散布する。
ハダニ類	生 育 期	・梅雨明け後～盛夏期に無降雨が続くと発生しやすい。 ・手遅れにならないよう、発生初期に防除する。 ・収穫期と重なることがあるので、収穫前日数に注意する。
スモモミハハチ	開 花 期 ～ 落 弁 期	・成虫は開花期のがくに産卵し、幼虫は落弁直後に幼果に食入するため、満開期から落弁期に薬剤を散布する。

## すもも【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									かいよう病	ふくろみ病	灰星病	環紋葉枯病	黒斑病	切り口及び傷口のゆ合促進
すもも	ICホルト <sup>®</sup> -412	銅水和剤	M1		-	-	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布					30倍	
すもも	アミスター107ロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布			1000倍			
すもも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布			2000～3000倍			
すもも	スターナ水和剤	オキソリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布					1000倍	
すもも	ストロビートライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布				2000倍		
すもも	チオロックロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布		500倍				
すもも	トリフミン水和剤	トリフルシゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布			1000倍			
すもも	トレノックスロアブル	チウラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布		500倍				
すもも	ナリアWDG	ピラクrostロビン・ボスカリト水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布		2000倍	2000倍			
すもも	バリタシン液剤5	バリタマイシン液剤	U18		収穫3日前まで	4回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布					500倍	
すもも	ベルクートロアブル	イミノクサジナルベシール酸塩水和剤	M7		収穫3日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布			2000倍			
すもも	マイコシールド	オキシトラサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布					2000倍	
すもも	ムッシュホルト <sup>®</sup> -DF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布		500倍			500倍	
すもも	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	散布			1000～1500倍			

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）						
									かきよう病	ふくろみ病	灰星病	環紋葉枯病	黒斑病	切り口及び傷口のゆ合促進	
小粒核果類	トップジンMペースト	チオファネートメチルペースト剤	1		【A】	3回以内		塗布							原液
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布			1000～1500倍	1000～1500倍			
小粒核果類	フルーツセイバー	ベンチホリド水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布			1500倍	1500倍			
小粒核果類	マスビース水和剤	シュートモスロシア水和剤	「-(生)」		収穫前日まで	-	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布	1000～2000倍						
小粒核果類(うめを除く)	オルフィンプラスフロアブル	テブコナゾール・フルピラム水和剤	「-(I*)」,3		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布			3000倍				

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

## すもも【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アブラムシ類	ウメシロカイラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	ケムシ類	コスカシバ	シクイムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	スモモハバチ
すもも	アブロードフロアブル	アブロフェジノン水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布				1000倍							
すもも	ガットキラー乳剤	MEP乳剤	1B		【A】	1回		【Z】						100倍					
すもも	カネイトフロアブル	アセキノル水和剤	20B		収穫3日前まで	1回	200～700 $\mu$ g/10a	散布									1000～1500倍		
すもも	サムコルフロアブル10	クロラントネリプロール水和剤	28		収穫3日前まで	3回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布					2500～5000倍		2500倍			2500～5000倍	
すもも	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布	2000～3000倍								2000倍		
すもも	ダースバンDF	クロルピリホス水和剤	1B	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布		3000倍							3000倍		
すもも	ダントツ水溶剤	クチアジソン水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布	2000～4000倍				2000～4000倍						
すもも	ハチハチフロアブル	トルフェンピラト水和剤	"21A(I*)	劇	収穫14日前まで	2回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布	2000倍										
すもも	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5～200 $\mu$ g/10a	【Z】						200倍					
					収穫前日まで	2回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布					4000倍	4000倍	4000倍		4000倍		
すもも	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布	2000～4000倍		2000倍						2000～4000倍		2000～4000倍
すもも	ロディー水和剤	フェンプロパトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布									2000倍		
果樹類	ハイセーフ	スタイナーネマカーボカプサエ剤	「-(生)」		幼虫発生期	-	25 $\mu$ g	【X】							2500万頭(約10g)				
果樹類	スカシバコンL	シナンセルア剤			【B】		40～100本/10a	【Y】							(8g/100本製剤)				
小粒核果類	アデントフロアブル	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布								2000倍	2000倍		
小粒核果類	アデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布									1000倍		
小粒核果類	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 $\mu$ g/10a	散布		2000倍				イハラ類 2000倍			オトウハダニ 2000倍		

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）										
									アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	ケムシ類	コスカシバ	シクイムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	スモミハバチ
小粒核果類	コルト顆粒水和剤	ピリフルキザン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	2000～4000倍		2000倍								
小粒核果類	ダニケッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	23		収穫前日まで	1回	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布									2000倍		
小粒核果類	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布									1000～2000倍		
小粒核果類	マイトコネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	20D		収穫3日前まで	1回	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布									1000～1500倍		

使用時期：【A】休眠期(落葉後～萌芽前)、【B】成虫発生初期から終期

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布、

【Y】ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する、

【X】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布